幼兒教育

第二十卷第五號

大正九年五月十五日發行

目次

幼稚園は親と子との要求を滿足させよ……田子一民
神戸幼稚園兒の能力調査(二)……望月くに
市俄古より……倉橋惣三
「海」の遊戯……土川五郎
幼稚園と小學校との聯絡問題(一)……紹介子
會報
少年音樂家(二)……岡田美津

日本幼稚園協會

會告

○會費御拂ひ込みの節は御名前は初め御入會の時の御名前と御同一になし下され度く、例之ば初め幼稚園名にて御入會、後、個人の御名前にて會費御拂込み等のことなき樣必ず願上候整理上甚だ煩雜致し候につき右特に御注意願候

○會費未納は會計整理上甚だ困難致候に付確實に御納付下され度向後萬一御不納久しきに亙り候場合は乍遺憾雜誌發送を停止可致候間左樣御含み置願候

○會員諸君にて御轉居等の節は至急御一報願上候

○萬一本誌不著等のこと有之候折は直に御一報煩し度候

本誌定價

一册（郵稅共）金貳拾五錢　六册　前金壹圓五拾錢
十二册　前金　參　圓　（郵券代用壹割增）

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。（振替口座東京一七二六六番）

大正九年五月十二日印刷
大正九年五月十五日發行

東京市日本橋區岩附町一番地
編輯兼發行者　小高艷

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷者　柴山則常

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷所　杏林舍

東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
發行所　日本幼稚園協會

幼兒教育　第二十卷第五號　大正九年五月十五日發行

幼稚園は親と子との要求を滿足させよ

——日本幼稚園協會總會の講演大要——

內務書記官　法學士　田子一民

私は、內務省の役人ですが、一體役人といふものは、學者にも、實際家にも屬せない先づ幽靈の樣なものです。此處には、湯原先生の樣な學者もお出でになる、また、皆樣の樣な實際家もお出でになる。お役人といふものは學問をして學者となるには忙がしすぎる。さりとて實際的の事はと云へば書類を見て之を知るにすぎない、いはゞ頭は天につかず、足は地につかぬもので卽ち幽靈です。この幽靈が春のこの時學者と實際家との間に立つて、お話をするといふ機會を得たわけで、私は今日は講演といふのでなしに、私が世間にむかつて切に訴へたいと思つてゐる私の衷情をたゞ吐露したいと思ふに過ぎません。

○子供に對して冷酷無慘な文明國

日本は、家庭では子供を可愛がるが、社會的には實に、子供を冷酷無慘に取扱ふ國です。かくいふ私自身は、別に繼母にそだてられた譯でもなく、幸福な者ですが、しかし私の樣な幸福なものでも、今の我が國の現狀を見ると、子供に對して冷酷であるといはざるを得ない。もし我々が、人種とか風俗とかいふものを拔きにして考へて、神樣が赤坊に向つて「君は、何處の國に生まれて來るか」と問ふとすれば赤坊は言下にこたへて「日本の樣な、子供に冷酷な國には生れたくない」といふでせう。私は最近外國を遊歷して、しみ〴〵之を感じました、日本に歸つた

らば、是非、子供の問題を何とか片づけなければならないと考へて居ました。尤も私は非常な子供おもひで、外國に居つても、ホーム・シックには、かゝらなかつたが、チルドレン・シック――實際、妻君よりも子供達の方が思はれてならなかつたのです。――にかゝつた。英國のある孤兒院に參りました際など其處には千人ばかりの孤兒が居ましたが、どの子もこの子も、自分の家の長男や次男に見える。その子供達を抱いたり、キッスしたりして、隨分このチルドレン・シックがなぐさめられたわけであります。そんなわけで私が人一倍、子供の事に氣がつくのかもしれませんが、兎に角、世界の文明國として、子供の保護の行き屆かないのは、實に日本ぐらゐなものでせう。一例として我が國小學校令の中の第三十三條をひいて見ませう。その第三項に、貧乏な家の兒童にして學令に達したるものは、その就學の猶豫又は免除をする事が出來るといふ意の事が規定してあります。まあ考へてご覽なさい。日本の樣な小さな國、職業の數もたらない國で、大學を卒業した者さへも就職難をうつたへて、生活難にあふ國ではありませんか。それが一方には、小學校にさへも行かれぬものがあつて、その子が成長して社會のどういふ地位を占める事が出來ますか。實に貧乏人に生れた子供。その父は貧乏をもつて、之、職とし、代々貧乏をだけのこして死んで行く。地位の得られ樣がない。そして一方、法令は實に明らかに教育をうけなくてよいといふ。大學にはいれる樣な子の家は、すでに父は地位もあり　金もある。そこでその子も地位を得る。この兩極端の二個の人が、このちつぽけな國の中で競爭して「さあ、職業の選擇は、諸君の自由にまかせる、何でもえらびなさい」といはれたとて、何の自由があるませう。貧乏人の子の前途思ひ知るべしではありませんか。二十餘年前の法令が、今日、なほ依然としてゐるとは、むしろ不可思議の事です。私は之を實に重大な問題として、嘗つても中央慈善協會でこの事をのべましたが、少くとも、貧困の家の子は、國家(府縣市町村)が金を出して義務教育をうけさせねばならぬと、考へて居るのであります。

勞働問題が近頃やかましい、しかし彼等は立派な團結力があつて、一擧、政府にあたり得る力があります。しかし、子供はかく團結して、彼等が自發的

に他に訴へる力をもちません。實に氣の毒です。かかる力なき助けなきものを、打捨てゝ置く國は、たしかに殘酷な國といはざるを得ません。私は衷心から、日本の子供のために、ひと骨折らねばならぬ事を感じます。扨、これから私が兒童に對して日頃有する考へを申述べませう。

○大人が子供に對しては

子供を我々大人から考へる時には、先づ、個人的に、次に、團體的に考へられるのです。

一、個人的方面より

これがまた、四つに分れます。

(1)親の愛情の對象として考へられる子供

子供は實に親の眼には、理屈ではどうにもならぬ可愛さがあるものです。

(2)親が自己の生(ライフ)を後世にのこすために

この方は(1)にくらべると、やゝ、知的になりますが、親が、子を通じて、空間的の自己の人格をまた時間的に後世に繼がせたいと思ふのであります。

(3)親の死後の靈をなぐさめてもらふために

これは、親が子に對する考へとして、實に利己的のものですが、つまり、親は自分の命は死とともに終るとしても、その靈は、神になるか、佛になるか、兎に角、つゞいてゐると考へる。その靈を自分の子供になぐさめて貰ひたいと願ふ。これが我が家族制度のもとをなして居るので、先祖の祭りといふ事は、なか〳〵我々の頭につよくはいつてゐる事です。

(4)自己の樂しみとして

これは、親よりも、むしろ以外の人々の子供に對する考へともなりませうが、子供を育てるその事を自分の樂しみとするのです。

二、團體的方面より

これがまた、いくつかに分れますが、

(1)國家、社會が存する以上、その構成分子たる兒童を保護することは、國家社會それ自身の存在の目的を全ふするために必要であるとするので、昨年八月、獨逸に出來た新憲法には、妊婦を國家が世話をして、又子供が多數の時には、國家が之を保護する義務がある、といふ事が定められて居ります。卽ち換言すれば、國家、社會といふ團體の存在の理由の

一つは、その一分子たる兒童を保護する事にありといふ論になります。

(2)これと反對に、國家、社會の存在、その發達の方が主で、之を全ふせんためには、兒童を保護せねばならずとするので、卽ち國家、社會を强くするための手段として、兒童を保護するといふ考へ方があります。

(3)また、人道主義の立場から、兒童の保護が考へられて居ります。當然、又最も自然の保護者は母であるが、その母が保護し能はざる時は、之を人道主義の立場から他の、なし得る力で保護するといふ考へ方です。

(4)また、國家が存在して行くためには、軍備が必要である。そのためには、たへず壯丁が與へられねばならぬ。この意味で、兒童を充分保護せねばならぬと、考へるのであります。

かくのごとく、個人的及團體的の諸方面の要求があやをなして此處に、また、種々の形で、兒童保護の問題が生れて來るわけであります。

○子供が大人に對しては

次に、子供の方の立場から大人に對して、どういふ考へをもち、どういふ事を要求するでありませうか。この問題は、兒童の權利などと云ふ標題で多くの人がのべて居る所でありますが、先づ大體次の樣になりませう。

(1)子供が親に對する要求として、先づ第一にすると思はれる事は、正當な夫婦——正當な結婚によつたもので、卽ち、役場の臺帳に登記したるもの——を親として生れた子でありたい。といふことで、近頃は、形式を無視した自由結婚などといふ言葉もありますが、子供からいはせれば結婚せざる母の子供にはなりたくないのです。統計によれば不正當な夫婦から生れた子の死亡率は、正當なる夫婦のそれの二倍になつてゐます。これは明かに、子供の生存の上からしても、結婚せざる母の子は、不幸なものであるといふ事がわかります。

(2)また、單に、役場にとどけた正當な夫婦を親とするからよいといふに滿足せず、更に、兒童は、自分を生んで呉れる兩親は、身體も、精神も、立派でありたいとねがふのであります。そして、子供自身がその兩親の立派な後繼者でありたいと願ふのであ

ります。

此處で私は少しくアルコホルの害について述べたいと思ふ。多くの心理學者、生理學者の研究の結果今日では、動かすべからざる事實として發表されて居るのは、アルコホルをかけた男子を父にする子供は、身體上も、精神上も弱いといふ事であります。そして、そのヒヨロ〳〵した子供の養育の任にあたるのは主として母親です。實に婦人は氣の毒なものです。夫のことを良人とかきますが、アルコホルを用ふる男子、そして害をその子孫にのこす樣な人達は、その妻にとつては決して良人ではありません惡人です。昔から良妻賢母といふ事を申しますが、婦人ばかりに良と賢とを要求する事は出來ません。男子もまた良夫賢父ならねばなりません。酒を呑んで家を外にとびまはつて、我子の顏さへ見ず、子は父をたまに見ると見知らぬ人と思つて泣き出すといふ樣な有樣では實に惡夫愚父といはねばなりません。子供は兩親の子供です。いかに母親が賢くとも父が愚で、酒にひたつてゐる樣でどうしてよき子供が出來ませうか。禁酒といふ事に向つては、現在の女子が聲を大きくして呼ばねばならない事です。少し話がわきにそれましたが、次に子としての立場からの要求は、

(3)この世に、一度生れた以上は、たとえ其の子が不正當な結婚による夫妻の子であるにせよ、不健全なる身體をもつて生れたにせよ、その生れた子供には罪はないのでありますから、子供は、自身の有する天性を充分に發揮する樣に養育してもらひたいと望むに相違ありません。

○幼稚園

此處で卽ち皆樣の日頃から苦心してゐられる幼兒敎育の問題がおこるのです。卽ち、遊びの本能を土臺として彼等に自由な發達を要求する譯になるのです。西紀一八三七年に、フレーベルが幼稚園の源を植へつけましたが、しかも、幼稚園(キンデルガルテン)といふ名をもつてよばれるに至つたのは、一八四〇年以後の事です。そして、フレーベルは、何處迄も子供の自由活動を、遊戲活動を、筋肉運動の訓練を重んじ、子供を子供として完全の養育を受けさせる樣に努力し、先生本位に、社會本位に考へる事を許さなかつたのであります。「兒童は保姆の先生なり」とは、フレー

ベルの言つて居る有名な句です。

扨、理想としては、兒童は親の手に養護敎育されるべきものですが、不幸にして親を失つた子供、又は、親がその親たる任務を果す事が出來ない時に、之を國家なり　社會なりの力でせねばならぬ事になり、こゝに社會事業が起るのであります、社會事業の事については今日は略します。

そこで今日のこの集會に直接關係のある所の幼稚園の問題について考へて見ませう。私は、勿論、その道の專門家でありませんから、詳しい事は知りませんが、兒童保護の立場から必要上、幼稚園を時々參觀します。先づ幼稚園と云ふても、デイ・ナースリー(Day nutsery)と、キンデルガルテン(Kindergarten)の二つの種類があります。前者は一八四四年に初めて佛國に出來たもの、後者は一八四〇年に獨逸のフレーベルによつてとなへられたもので今日も尙これをこのまゝ「幼稚園」として用ひて居ります。キンデル・ガルテンといふのは申す迄もなく獨逸語です。英國でも、米國でもなか〳〵外國語はそのまゝ用ひないのですが、このキンデル・ガルデンだけは今は世界語となりました。獨逸語そのまゝを用ひてゐます。もし英語にすれば、チャイルド・ガーデン(Child Garden)ともいふ所ですが、そうは申しません。

また、デイ・ナーズリーの方は晝間託兒所又は保育所ともいふべきもので佛國バリーに初められたのです。その最初は工場が發企したとも學校が初めたとも云はれて居ります。この事については既に先年同じこの協會の集會で、生江氏がのべて居られますから、私は詳しく申上る事を略します。學問上から云へば兩者の區別はないわけですが、たゞその出發點を異にしてゐます。卽ち幼稚園の方は何處迄も敎育を主眼として居りますが、「晝間託兒所」の方は親の足手まとひ(あして)になる子供を預つて、之を保護するといふ事にあるので、隨つて敎育的の諸種の施設は幼稚園の方がはるかに進んでゐるのです。

幼稚園の本家は、先にも申した樣に獨逸ですが、今ではその本家よりも米國に於て實に、非常な發達をしてゐます。コロンビヤ大學にも、シカゴ大學にも之が研究の施設があり、又、グリーシステムの學校でも幼稚園の研究は盛にされてゐます。從來は、直感主義、遊戯主義であつたものが、近頃は筋肉主義が盛にとなへられてゐる樣です。これはどういふ

事かと申しますと、例へば幼稚園で兎を飼養する。それを入れる大きな箱をこしらへて、一組の幼兒が五十人なら五十人、朝八時に集まる。そして、前日によい事をした子供が、その中から選ばれて、兎の箱を講堂の眞中にはこぶ、そして筋肉を練習し、又その子の勇氣を組の子供が觀察する。そして元氣を貴ぶ氣風を養ふ、次には、また、善行をした第二位にある子供が兎に餌をやる名譽を擔ふ、そして兎が餌をたべるのを皆が觀察する、といふやうな仕方です。今、文部省の第四課におられる水野常吉氏が先年、ボストンで「日本の幼稚園」といふ本を出版されましたがその中には、幼稚園を經て小學校へ來たものと家庭からすぐに來たものとについて、比較研究の結果をあげて居られますが、それによると、幼稚園を通つたものは、「物の了解、記憶力などはすぐれてゐるが、努力を要する事となると、幼稚園を通らぬものよりもおとる。又、習慣の上からいつても幼稚園から來たものは、どうも時間中に話をしたり注意が散漫になつたりする。身體的方面からいつても、幼稚園を經過したものゝ方の健康は然らざるものよりもおとつてゐる」と申して居られますが、幼稚園生活が卽ち知的にはまさるが體力の方面でおとり、努力をする力がたりないといふ缺點を補ふために、筋肉主義が考へ出されたのです。幼稚園ではかくのごとく日々研究をつゞけて發達して行くのでありますが、之に反して、デイナースリー（晝間託兒所）の方は、たゞその場所に子供を預つて、怪我のない樣に日光浴をよくさせて、一日を安全に送らせるといふ事にとゞまつてどうも敎育的價値は乏しい樣に思はれます。

○將來の幼稚園は如何すべきか

幼稚園敎育の完成のために必要な條件は、

(1)家　庭　(2)母　(3)社　會

の三つであります。もつと、つゞめてしまへば(1)と(3)だけにもなりませう。よく幼稚園の效能をあげて遊戯とか音樂とか、或は筋肉の練習がどうであるとか。社會的生活の訓練がどうとかいふ事をやかましく云ひますけれども、幼稚園敎育を完成するには、どうしても、先づ家庭そのものが、又、社會そのものが、よくならねばなりません。幼稚園だけが決して孤立し得べきものではありません。

先づ家庭といふ立場から考へるにあたつて、此處で私は、私一流のドグマを申上ませう。私は知育はともかくも、それ以外の人格的感化は愛といふ力であると思ふのです。

二を一とす。……(From twoness to oneness)

一を二とす。……(From oneness to twoness)

これが私のドグマです。卽ち二を一とするといふものゝ最も强烈に表はれるのは、男女間の愛であります。別々の二つもの、所謂ゆるあかの他人なる二つものが、愛によつて一つになろうとするのです。一つにせねばやまない努力です。また一を二とすといふのは、これは母といふ一個體から子供といふ一個體が別れる、一つのものが二つになるのです。其處で母と子との間には愛がある、その愛は一つから二つになつたものをまたもとの一つにひきもどさんとするのです。母親が子供を抱いたり、おぶつたりして、またいくら愛しても愛したりないその心持は實に此の、我から別れた一個體を我にもどさんとするつよい愛情であります。男女の愛——戀——はもと〳〵二つのものが一つにならうとするのでありますから、一旦その絆たる愛情がなくなれば、全然もとのまゝのあかの他人であります。よし役場の臺帳には一つのものとして、まだ、載つてゐるにせよ、當人同士はあかの他人であります。しかるに、一を二となす愛情、母子の關係は如何でありませうか。凡そ、子供をもたない人はありますが、親から生れない子供は何處にもありません。そこで、たとひ親子の緣がきれたといひ、勘當した、勘當されたとなつて役場の臺帳から消されてしまつても、もと〳〵親から別れ出た一個體であるといふ事實は、どうしても消す事は出來ません。一つにひきもどそうとする愛情は、何處かに殘つてゐるのです。繼母が繼子を本當の子の樣に可愛がるといふ一種の自慢をよく聞きますが、それは二を一とする方の愛情で眞の母子の愛たる一を二とする。別れたものを取りもどさんとするの愛情ではあり得ないのです。もと〳〵血をわけた我が個體の分れではないのですから。

そこで、幼稚園の保姆と、その子供との關係は如何にあるべきか、學者でもない、實際家でもない幽靈の私は、たゞ一つのヒント(暗示)を與へるにすぎないのですが、私はやはりその根本は愛情であると思ふ。幼兒と保姆との間はもと〳〵他人である、

しかし二を一とするの愛情のきづなでつながれて行かなければなりません。かく言ふ事はやすく、事實は實にむづかしい事なのですが、これが出來なければ幼稚園がいくら設備がよいとか、保姆に學識が豐だとか、保育法が充分研究されてゐるとか云つても、つまりそれは外物の事で、その原動力として保姆の幼兒一人一人との間に愛情のきづながしつかりむすばれてゐなければ幼稚園教育は不可能になるのではありますまいか。

次に社會といふ方面から考へて見ませう。子供の教育といふものは、決して家庭なり又、幼稚園なり又デー・ナースリーなりの内だけで出來るといふ樣にせまく考へてはなりません。實に社會全體が、この世界全體が子供の立場から見て、そのもつてゐる遊び(プレー)の本能(インスティンクト)も、歌はんとする本能も、あらゆる身體的活動も滿足せしめ得る樣なものとしなければなりません。この現世界を幼稚園たらしめ、すべての母親をこの大きな幼稚園の保姆たらしめなければいけません。どうすれば社會そのものが幼稚園になり得るか、これについては幼兒のために心を常にくだく所の皆樣が保姆の方々が、研究し立案して之を當局に提示してほしいのです。遊園場の如き、音樂堂の如き、體育館の如き、幼兒のため施設が實に乏しいではありませんか。又積極的に何の施設をといふ他方には、消極的に幼兒の生活、その活動を妨害抑壓するものをのぞく樣に努力すべきです。先日も私は或る公園をあるいて居て感じました。あそこには子供のための遊び場もまづ相當にあるのですが、折角、幼兒が樂しく遊んでゐる所へ、何處かの小僧達が使のかへりか、ふと其處へ來て、幼兒等の遊具を全部奪ひとつてしまつて勝手に遊んでゐる。そして誰もこれをとがめないのです。私は實にこの侵入者たる小僧達をにくむとともに、かうしてうばはれて行く子供の世界を悲しまざるを得ませんでした。實に我々の考へる以上に、子供の世界はあらゆる方面にいろ〳〵の方法で奪はれてゐるのです。自動車が近頃非常に澤山になりました。これがどの位子供達の生活を不安にする事でせう。私は思ひます。せめて學校の門前、幼稚園の門前は、徐行してほしいと、あのけたゝましい響きと早さとがどれほど幼ない子供の神經を刺戟し。之を疲れさせるかはわかりませ

ん。學校や幼稚園が、「徐行せよ」といふ立て札を門の前に出したらよいと思ひます。ニューヨーク市などでは、細民の居る狹い横町などはクローズド・ストリート(Closed Street)と申しまして、其内には車馬が入らず、細民の子供等はその横町を「おのが天地」として安心して遊ぶ事が出來る樣になつてゐます。

實に、この社會全體を幼稚園たらしめ、どの母親も保姆たる修養をつむ樣になりたいものです。

○幼稚園の保姆及管理者へ注文

大分、時間も立ちましたが、私は最後に、幼稚園の保姆諸君及管理者の方々に注文したい事があります。先づ之をわけますと、四つになります。

(一)現下の勞働問題の解決策の一方法として、現今の幼稚園は、この方面に適當の變化を試みる必要があります。この事は幸、先刻、會長湯原先生が御挨拶の中にお述べになつた事の中にありましたから重複をさける事に致します。私はいつも上流の家庭と幼兒との關係を考へます。貴族の生活をしてゐる母親は一日、何の用事もなくすごす事が多いのです。下僕を多くつかつて、夫の世話も食事の世話も萬事、他人(ひと)まかせ、その上自分の子供さへ幼稚園に送り出してそれすら一切乳母まかせで、母親は一日ぶら〳〵して居る、あまりそれでは閑すぎます。かかる家庭では、私は母親がそれこそ、かゝりきりで子供の教育をすべきで、幼稚園に出す事はいらないと思ふのです。しかるに中流又は以下の家庭で母親が何かと多用である、また社會に出てまで働かねばならぬ。かゝる場合に於ては、そこから起る種々の不自由を除かねばならず、よし母親直接の養護にくらべて、不徹底にせよ　日中は幼兒を幼稚園で世話することがよいといふ事になりませう。それ故幼稚園の事業は貴族から貧民に、金持から貧乏人に發達して行くべきで、母親が勝手氣儘を、樂をしたいから幼稚園が必要といふ事では大きな間違ひです。幼稚園は何處までも家庭の延長であつて、家庭でとゞかない所を幼稚園が補ふといふ樣にする事が大切な事です。

(二)幼稚園當事者が政府を指導して、もつて法制の確立を歸する事が重要な事です。貧民救濟といつても、いくら、せつせと救濟したからといつて、貧民はあとから〳〵と、出て來るのですから、救濟し

切るといふ事はありません。これと同じくいかに經濟組織産業が整ふたとて、幼稚園の問題がそれで解決のつくといふものではありません。實際、幼稚園の當事者が、その研究の結果を發表して、如何にその事業が重大な事であるかを政府に訴へ、もつて、政府の力で、大學の教授よりも、專門學校の先生よりも、より以上、偉い人物を幼稚園教育者として送るといふ樣にしなければなりません。幼兒――小さいもの――だからその教育者は何でもよいと云ふ事が出來ますか。もしそうならば、世の母たるものは、皆、馬鹿でよいといふ論法になるではありませんか。否、母親は實に最もえらい人物でなければなりません。

幼稚園でも、實際その得た材料を政府に提供して欲しい。少しその道にかけて狂人めいた人が出て、うるさく政府にせまつて、之を鞭撻して、幼稚園教育の完成に適當なる法制を國をしてつくらしむる樣にしたいのです。

(三)今日の社會ならびに世の父兄をして、幼稚園の價値を、充分にしらしめなければなりません。「幼兒教育」の必要を力說しなければいけません。折角日本幼稚園協會が出してゐる雜誌「幼兒教育」も、どれ位發行して居られるか存じませんが、大に宣傳する必要がありませう。私共の今やつてゐる兒童保護の仕事の一つとして、感化院の世話をしてゐますが、これとても實際、法の力で地方にその設立の强制をし、投建物も出來、職員もそろつて、肝心の收容すべき兒童が集らぬのです。かういへば如何にも不良少年が少くていゝとお考へでせうが、はいるべき兒童がなくてはいらぬのならば、申し分がないのですが、事實日本全國でこの不良少年の數が戰前に於て十萬人ありました。そして年々七萬人は出來るのです。かゝる多數の不良兒を、感化院に收容し之を善導する事なしに、野にはなつて置く事の害は申上る迄もありますまい。實に、社會全體が目覺めなければなりません。

(四)最後に教育といふ事業は、教育者の專有物であると考へてはならぬといふ事を申上たい、何處迄も社會一般が責任を負ふべきものであるといふ事をお互がつねに自覺して居らねばなりません。そして教育者だけが、一人うれへ、一人つぶやくのでなしにびし/\之を公にうつたへて、一般社會と力をあはせるといふ事が大切です。

この意味で私は、役人を利用なさいとお勸めするのです。官僚だ、官僚だとて毛嫌ひしてはいけません、またよく官僚を打破せよといひますが、役人は一寸たゝいた位でつぶれるものではありません。それよりもその役人を利用なさるがよい。なあに役人といふような俗人どもがといつて眼中におかない樣ではいけない。私は仙俗合同を主張します。卽ち敎育者といふ仙人が役人といふ俗人と合同して初めて、事がうまく行くのです。よろしく敎育者たる、また幼稚園敎育の上に實際家としての權威を有する皆樣は、充分その所信のある所をのべて、政府をして充分その仕事を了解せしめ、實行せしめるの機運をおつくりになる樣に私はお勸めしたいのであります。

（筆記――文責在記者）

○ちゅちゅむさん

――古いノートの中より――

ちゅちゅむさんのお宅の御門に忌中といふ札が貼つてあります。進さんは一昨日は戸外でいつもの通り遊んでゐましたが昨日の夕方は體溫が四十度以上で寢てゐたといふ事です。まさかあの子が。

皆と皆に笑はれまいと――して獨立獨行の強い意志で歩いてゐます。駈出しさへもします。私には無論初めは抱かれませんでしたが一度二人ぎりでモヂヤ〳〵をして以來、進さんは私を知り私を覺えました。それからこつち、モヂヤ〳〵の伯父さんたる私にはいつでもちつとして抱かれるのです。きつと私を父ちやんと辨慶との合の子位に思つてゐるのでせう。進さんにお菓子をあげる時、今こゝでお食りといふとすぐそれをむしやむしややりますがお宅へもつて歸るんですよと言うて聞かせるといつて胸にだいてさつさと歸ります。誰にあげるの？父ちやん？母ちやん？ときくと「一番上の姉ちやんにも」と答へます。

蓄音機の前にはラッパの正面にいつでもキチンとお行儀に坐つてラッパの底に何か見えでもする樣に一生懸命に中を覗き込みます。軍樂を奏すると、兵隊さんが通ると、ラッパの底から一隊の兵士が行進して出て來るものと信じて身を堅くして待ち構へてゐます。そして進軍ラッパばかり聞えて遂に影も形も見えないと細い眼を丸くして誠に奇異の思をします。蓄音器が鈴蟲松蟲といふ唱歌を唱ひ出すと「ちゅちゅむさんの松原さんだつて」と、自分を呼ぶといふて、ニコ〳〵してゐます。

進さんはかういふ本當に可愛い子だつたんです。

蘭は天くして挫けた。進さんのお宅の門の忌中の札は矢張外ならぬ進さんその人の顏がひたと視神經に喰ひ入つてはなれませぬ。めであつたと分つ時、落著いて嘘ぞと信じ嘘でないと分つて人はそんなに容易に死ものかを又頗る怪訝に思はれた。進さんの顏がひたと視神經に喰ひ入つてはなれませぬ。

自然と人間との永遠の戰では、人の智慧がすゝむにつれて、人は自然を征服する。自然はその敵討をせずには居らぬ、自然に與へられた防衛を奪ひ行く上に種々な新たな病を施します。あゝ可愛いゝ進さん、私の四歲の親友、自然と人間との戰ひにこれは餘りに悲しく慘酷すぎる犧牲です、幼時は何にもこらないんですから。

「子は息才に生び立つてみるが深き孝行」と。大凡の親心を淋しい絲の上に託した人情の生地です。ちゅちゅむさんを返して下さい。進さんは可愛いゝんですもの。

神戸幼稚園で研究した

園兒の能力調査（三）

幼稚園長　望月ク二

數の觀念（計算）

數の觀念と云へば一、二、三、四と數の名稱を系統的に呼ぶことの樣に思はれてゐますが、これは單に記憶でありまして、觀念とは、お菓子やお玩具を數へることから始まつて、一つ〳〵又一つと數へる動作を反復するので、心の働の上から相違しております、それがために割合むつかしく、年齡の少ないもの程、數の觀念が少なくなります。計算の方から調べて見ますと、數の觀念のある丈は加減の計算が明かに出來ますから、幼兒の數の觀念と計算とは一致すると思ひます。これを調べるには、二人の子供を膝下に呼び、貝の如き數の多いものを置き「ソノ貝ヲ一ツ下サイ」「二ツ下サイ」と云ひ、子供に取つて貰ふのです。小供が三つより數へ得ない時卽ち「四ツ下サイ」といへばグジャッと摑んで澤山に呉れます。それでもはや數の觀念は分ります。多といふ觀念は智ある動物でも幼い子供でもありますが、それは何個といふのではなく不定に多と考へるのであります。

數の觀念程、個人差の多いものはありません。或る小供は一つも數へられないのに、或る子供は百千の數を敎へられずして十進的に分類して、一つが十十が十、十が十のかたまりが十などと數へるものもあります。百千といふ語は知らないが、確かに觀念としてはあると思ひます。今一つ位より敎へられない子供を導いて普通の標準に達せしめやうとするには、矢張りお菓子を與へる時に數へさせたり、又その外何物でも數へさせる樣にすれば反復によつて自然に發達して參ります。

昨年の四月、新に入園した子供とその子供達が八ケ月後との發達の仕方を調査したものを左に御目にかけます。

數觀念調査

年齡	性	人員	大正八年四月	大正八年十一月
五年	男	一八	六	一〇

	女	男	女
六年	一八	二八	二四
	五	一〇	一三
	一〇	二〇	二〇

此の表に表はれたのは極めて簡單ながら、此の八ケ月間に於て確實に五年の十、六年の二十迄は發達して居ります。これは前に記した通り玩具や木の葉や石等を山で遊び園内で遊ぶ時にいつも數へさせた結果であります。六歳の男兒の中百まで數へ得るもの各々三名あり、五年十五まで數へ得るもの男七名女三名あり、十九迄數へるもの男に二名ありました。

圖畫

子供の圖畫は其の精神内容を物語るもので、子供が云はんと欲することを發表するのでありますから、大人の文章と異ることはありません。元來この圖畫といふものは技術のものとして考へることも出來、又藝術的の意味からも見ることが出來ますし、其の他色々の見地から見る事も出來ますが、私共は子供が如何にも樂しそうに彼等の筋肉活動に訴へて描出した圖畫からその精神の内容が如何に表現されるかと云ふことを調べて彼等を適當に教育してやりたいと思ふの外はありません。そこで他の智能檢査と同じく四月の始め入園當時と十一月とに行ひました。先づ幼兒に長い鉛筆と一枚の畫用紙を與へ「人を描いてごらんなさい」と申しました。然しこれ丈ではあまり簡單で理解しにくいと思ひまして、重ねて「あなたのおとうさんでも、おかあさまでもおねえさまでも誰でもよろしいから書いてごらん」と申しました。中には今まで既に家庭で鉛筆や用紙を玩具として與へられて居たものもある樣に見受けられましたが、又、初めての樣なものもありました。初めての者の方が心に形式が出來てゐなくて却つて能く精神内容が解つて好都合でありました。出來上つた彼等の繪は極めて簡單なものでありましたが、それは卽ち幼兒の心の中にある人といふものに對する觀念が現はれて居るのでありまして幼兒の日常の觀察力や意志活動の程度と正比例するもの故これによつて子供の性質や環象を考へ合せ、一人〳〵の指導の羅針盤とするので、左の第一表を見ますと幼兒の最も注意して居るのは、目鼻口にして他の各部も僅に八箇月の間に其の精神内容の頗る豐富になつて來たこ

圖畫調査（第一表）

年齢	性	人員	調査時	目	鼻	口	足	胴	手	肩	耳	衣	髪	歯	首	履物	帶	模様	ヒゲ	ヘソ	襟	帽子	乳	附屬
六年	男	三三	十一月	一〇〇%	一〇〇	一〇〇	八二	七六	七一	六六	五八	一六	六〇	一	二〇	五	三	一	一	三	一	一	一	一	六
	女	二九	十一月	一〇〇	九七	一〇〇	九三	一〇〇	九〇	一〇〇	九六	六六	一〇〇	五五	六六	一四	三一	一四	一	七	二八	三一	一	一	一
五年	男	一八	十一月	一〇〇	八三	一〇〇	七二	七二	五六	一七	一一	五〇	一	一	一一	一	一	一	一	一	六	一二	一	六	一
	女	二二	十一月	一〇〇	八七	一〇〇	八八	八一	八一	八一	六九	八八	三一	一	一	一九	一	一	一	一	一	一	一	一	一

圖畫調査（第二表）卽ち品等より見たるもの

年齢	性	人員	調査時	一等品 身體各部を具備し筆力よきもの	二等品 殆んど各部を具備せるもの	三等品 頭部及顏面の人と見ゆる者	四等品 説明なくしては人と解し難きもの
六年	男	二九	四月	一一%	三一	四四	一三
			十月	四六	四六	八	一
	女	二九	四月	一〇	三四	四八	八
			十月	五〇	三〇	二〇	一

年齢	性	人員	調査時	一等品 身體各部を具備し筆力よきもの	二等品 殆んど各部を具備せるもの	三等品 頭部及顏面の人と見ゆる者	四等品 説明なくしては人と解し難きもの
五年	男	一八	四月	一	三	二二	五〇	二八
			十月	三八	三一	二五	二五	一三
	女	二二	四月	三	三一	二九	五〇	二三
			十月	三一	三一	二五	二五	一三

とは驚く許り、衣服の模様履物などに注意を及ぼす様になつたことを知ることが出來る。又第二にはこの繪の描寫力を畫的見地から見ることに致しまし

た、卽ち之を形式と內容と技術との上から見て、子供のかいたものがどの程度であるかと云ふことを調査した結果が左の第二表の通りであります。

畫的見地より見たるこの繪畫を形式、內容、技術の上より分類し品等を定めると四月初めに於ては全く錯畫にして何等の意味をも見出し得ざりしが六年男女兒五年男女兒の進步は驚く許りであつて一等、二等　三等と雖も其の描寫力の發達の著しいことを知ることが出來るのであります。幼兒期に於ては精神上の變化の早いことがこれに依つても分ります。幼兒にとつては八箇月といふ日子は實に貴重のものであります。然も其の進步の仕方は始めに於て（四月）幼稚なりし者程却て著しき發達を遂げてゐる、四月に於て或る程度迄進步し居たりし者は八箇月以後に於ても其の發達は少なく形式に於て僅かに發達し衣服の模樣等に觀察が及んで居る丈で、內容にはたいした進步を現はさないのであります。筆力は餘ほど雄健に成つて居るが、或は此の年齡に於ける發達の頂點に達したものかとも考へらるゝのであります。以上記せる如く今日私共が眞に子供達を保護敎養しようとするには、どうしても其の年齡相當の發達を精査し、之に順應し指導せねばならぬ。若しも近頃流行する早敎育の樣に、早くより子供を引延さうとするならば、そは恰も水田に泳いで居る「オタマジャクシ」がやがて蛙になるからとて、一足飛びに陸上を飛ばしめたなら遂には生命を失ふに至ると同一で、頗る危險な事ではありませんか。世の中には動かすことの出來ない自然の原則があるのにも拘はらず、之を研究せずして、子供を敎育することが出來ませうか。この自然の原則に應じた敎育といふは卽ち兒童の心身の發達につれて、彼等の內部から涌き出づる遊戲的興味であつて、それが自然に彼等に彼等の行くべき道を敎へるから、敎育者は唯其の道案內となつて輕く彼等に觸れて居ればよいのであります。併し斯る調査を報告する時は、幼稚園敎育が體育情育を忘れて智的に導くために保姆が苦心して居ると誤解せらるゝおそれもありますが、最初にも少しく記した通り幼兒期に於ける最も重き仕事は、身體を强健にする事であり、美しい環境の中で情育をすることでありますが、此の時期の幼兒は、自己の內部より自然に活動を起し發展し恰も肉體が饑渴を感ずる時の如く、多方面に興味を感ずるを以つて、その要求に應じて智的にも兒童の自然的發達を遂げしむる事は　これが卽ち幼稚園敎育であると信じて居る次第であります。

（終り）

シカゴより

倉橋惣三

今日（三月二十九日）『幼兒教育』の二月號が著きました。先づ、包み紙の美濃紙と、毛筆で書いてある上書きの墨の色とに、だしぬけに、日本服の友達に遇つた樣な輕い可笑し味と、言ひ難いなつかしさ、とを感じました。私はすぐ、友達に、其の澁い好みの茶羽織を脱がせました。どこ迄も地味な、生眞目な友達は、去年、故郷で會つて居た時と同じ著物を著て居ました。――私は、此の始終見慣れた、飾り氣のない表紙を眺めて、いろ〳〵の事を思ひました。

桃圃さんの、「我園保育の近況」は、何といふこまやかな記載でせう。野分けの風のあとの、澄み切つた空の下に、朗かな日光が漲る樣に充ちて居て、その中を、小さい羽を光らせて飛んでゐる赤トンボの群と、強い秋の日に頰を紅くして、額を少し汗ばませて、それを追ひかけて居る子供達とが、浮き繪の樣に眼に見えて來ます。子供の、ものの見方の裡に見出された嚴肅な教訓の貴さは申す迄もありません。

中澤さんの、「勅題にちなみて」の唱歌は、彦根幼稚園の美しい吉例であるとゝもに、それを掲載する『幼兒教育』にとつても、年々の嬉しい吉例です。皇室から國中へ御題を賜はつて、それを歌にし、作曲して、自分の園の幼兒達に唱はせるといふような美しいことが、我が國ならで、どこの世界の幼稚園にありませう。

「我園の一日を」は、本當に賢い編輯振りだと敬服しました。殊に、私にとつては、斯うして、一時に、いろ〳〵の方のおたよりを、聞き得ることが、どんなに幸なことか知れません。私は、總べての方の御報告に、一々深い興味と、それ〴〵の個人的の聯想とを以て、細かに讀みました。その各々の中に含まれてゐる、保育上の多樣な問題は、私に、いろ〳〵のことを考へさせました。併し、それは、簡單な書翰では、到底、書き盡し難い事です。たゞ、斯うして、色々樣々な工夫と努力とを以て、學理的一律や、法令的劃一に捉はれて居ない我國の幼稚園教育を、

今更の樣に意味深く考へた事だけを一言させて頂きます。

奈良女子高等師範學校保姆養成所の新設は、非常に喜ばしい事と思ひました。此の新しい計畫は、豫ねて、槇山校長から、漏れ聞いて喜んで居た事ですが、愈〻實現されたのは、我國幼稚園教育の發達の上に、どんなに賀すべきことか、測られません。私は、こちらへ來て見て、我國に、保姆養成所のたりないことを、一層深く思つて居る處です。この報知を、一層の喜びを以て迎へざるを得ないのです。

サンフランシスコからの、私の繪葉書が、貴重な(殊に紙代の非常に高いといふ)一頁を占領して居るのは、恐縮にたえません。しかし、それよりも、尙ほ恐縮な事は、此地著後の非常な御無沙汰です。此の繪葉書を見て、急にすまない氣がして來ました。お約束の紙上通信は素より、出發の朝、わざ〳〵見送つて下さつた方々、懇ろなお手紙で送別して下さつた方々、海上まで無線電信で道中安全を祝福して下さつた方々に、まだ、何の御挨拶も申上て居ないのです。又、更めておたよりはなくとも、私の旅を何彼と心に懸けて居て下さる方々の多くあることを知つて居るのですが、まるつきり、四方八方への御無沙汰で、申譯けがありません。誠に延引ながら、誌上を借りて、遲ればせの御禮や、お詫びや、無事のお知らせやらを申上ます。

「大會所感の記事を讀みて」は、今迄、らくな道を歩いて居たものが、ふと立ちすくんだ樣な心持ちで思はず眉をよせました。しかし、私は、直ぐ、眉を開きました。我國多數の幼稚園關係者が、何も、そう〳〵、口をあはせて、始終、同じことばかり云つて居なくてもよい。いゝ加減な調和よりも、時には調子のくひちがひに、大きなオーケストラの面白味もある。つまりは、同じ大きな歌だと思ふと、再び、らくな心持ちになりました。十二月號に出て居た大會所感の主旨が、どういふのであつたか記憶して居ませんが、此の文に拔き出されてある所だけを拾つて見ると、關西の一會員君の言はるゝ所も、至極く無理もないと思はれます。しかし、ある所だけをぬいて見ると、そこが強く響いて來るのは、免れないものです。それに、十二月號の所感の筆者が、意あつて言葉たらずといふべきか、或は、心よりも。言ひ方が一方に偏り過ぎたといふべきか、つまり、所

感の一面を強すぎる程エンファサイズ（力をこめて）して言はれたらしい樣に思はれる點もあります。殊に十二月號の所感の筆者も、大會を批評したのではなくて、大會で感じた事を言はれたに過ぎますまいし、關西の一會員君も、そこは氣を惡くしないで頂きたい。何もこんなに氣にしたり、仲裁めいた言ひかたをしたりするにも及ばないことゝも思ひますが、此の文の中に、東京對關西といふ樣な處のあるのが私には心に懸るのです。我國の幼稚園敎育の發達は、所謂、全國一致でなければならないといふのが、私の平生からの信念でもあり、祈願でもあります。折角全國の大會が、第一回、第二回と開かれて、第三回の開催地も、まだ定まらずに居るといふ時に、こんなことで――殊に大會そのものが因になつて、多少でも東西の感情に、わだかまりが出來る樣な事があつたら、これ程悲しいことはありません。勿論そんな心配をするまでもなく、取り越し苦勞に過ぎないとは信じますが、一度言ひ、一度應へて、あとは、きつぱり、互に隅田川と淀川との水に流して下さい。呑氣な積りでも、旅の身は、聊か、心配性になつてゐると見えます。氣になるまゝをお二人の筆者に申上て置きます。

さて、これで、七十八頁が終つて、この次の三月號は、今頃、船の中でゝもありませうか。

こちらの幼稚園の模樣も申上る筈ですが、之れも不精ばかりしてゐます。シカゴ大學の幼稚園へも一週間程入り浸つて、先生方とも、目の碧い、髮の紅い、人形の樣な子供達とも懇意になりました。たゞ、何しろ、私一人で見ていふことですから、間違ひがあつては、幼稚園へも、讀者諸君へもすみませんし、それに、いくら、見たまゝを書くつもりでも、私の、出ないでもいゝ意見が、ちよい〳〵頭を出しませうし、人のしてゐる事をうつかり批評してもわるいと思つて、又、一度、變つた時に見てから更めて考へやうと思つてゐます。それに、見てゐると可愛くばかりなつて、觀察がどうもお留守になるのです。まあ、細かいことは、歸りましてからといふことにして頂きませう。たゞ實際保育の細かいことのほかに、シカゴ大學として、幼稚園敎育を、どう取扱つてゐるかといふ方針の樣なものは、大體でも何か申上たいものだと思つて居りました所へ、丁度いゝ都

合に、大學から出る初等教育の雜誌に、テンプル女史の論文が載りましたから、それをお送りして、御苦勞樣ながら、編輯部の方に譯載して頂きませう。テンプル女史は、シカゴ大學教育大學の助教授で、幼兒教育の理論の講義と、學生の保育實習の指導をして居る人です。之れで大體を御承知下さい。

來た時は雪に埋つて居たこの地も、すつかり春めいて來ました。ロビンが、晴かな聲で囀づるやうになりました。公園や路傍の芝が、急に、美しい濃い綠になりました。ミシガン湖の氷が、あとかたもなくとけて、春らしいやわらかい磯波に、之も一段と春らしい月の光が、もつれあふ樣になりました。ただ、閉ぢ籠めた嚴しい冬よりも、やさしくほどけた若い春に、旅のひとりを思はせることが多くあります。

さて、この手紙が皆さんにお目にかゝるのは、新しい青葉が、日本全島を包んでゐる頃でせう。

遙かに、親愛なる諸君の御健康を祈ります。

机邊より

○悲慘きはまる墺國の兒童

墺國では食糧の缺乏益〻甚だしく殊に牛乳の供給不足で子供の養育が困難となり、止むなく三四歲乃至五六歲の男女兒童數萬人を、牛乳の豐富な和蘭や伊太利に送り込み、こゝ數年間各國救濟團の手で育てあげてもらふ事にしました。

しかるに、この兒童列車が、首都維也納(うゐんな)を出發する時、實に慘憺たる光景が演出されました。市長は先づ、これら外國行きの子供團に訓示を與へ「お前さん方が外國に居る間、國元のお父さんやお母さんは、きつと丈夫に暮して居る、永いことはない、きつと二三年の間である、行つた先きの外國のお友達には、必ずさう言ひなさい—オースタリーの景氣がなほつたら、今度はお禮のため、きつと、皆樣を御招待いたしますと——」

見送りの母親達は皆聲をたてゝ嬉じなきに泣き叫びました。しかしいよ〳〵汽車が動き出すと、車窓の中の我子を奪ひ返さうとして護衞の巡査隊と格鬪を始め顏を爪で引つ掻かれた巡査が大勢あつたさうです。

（「愛國婦人」第四四〇號の中より……）

* * * *

何といふ光景でせう。何といふ事實でせう。母の手から奪はれてしらない國へ牛乳を飲みに行かなければならない幼兒達!!

大戰の餘波は何處までひゞくかわかりません。

海

ヘ調 $\frac{2}{4}$　　(教育幼稚園唱歌集)

5 6 5 | 3 1 | 2 3 2 | 1 5 | 6.6 6 5 | 1.1 6 1 | 2.2 1 2 | 3.0

オホキイ ナミ チイサイ ナミ ヨ丨セテ カヘシテ マタヨセ テ
おほきい ふね ちいさい ふね け丨むり はいたり ほかけた り
オホキイ ウヲ チイサイ ウヲ ヲ丨フリ ヒレフリ ウキシヅ ミ

5.5 6 | 5.5 6 | 5 3 1 | 2.0 | 1 2 3 | 6 5 | 3 2 | 1.0

シロク シロク マツシロ ク サイテハチル ヨナミノハ ナ
はしる はしる みぎひだ り い つ かと ほ くきえてゆ く
アソブ アソブ ナミノシ タ ウ ミ ノヤマカゲ クサノカ ゲ

海

教育幼稚園唱歌集

一、
大きい波　小さい波
寄せてかへしてまた寄せて
白く白く眞白く
咲いては散るよ波の花

二、
大きい舟　小さい舟
煙はいたり帆かけたり
走る走る右左
いつか遠く消えて行く

三、
大きい魚　小さい魚
尾ふり鰭ふり浮きしづみ
遊ぶ遊ぶ浪のした
海の山かげ草のかげ

表情遊戯

土川五郎

○海

（教育幼稚園唱歌大阪開成館發行）

圓心に向く

一、大きい波　兩手を掌を向き合せて頭の前（顔より少し前に離して）に持ち來りこれを波狀に大きく左右に開き　波にて又頭の前に持來る。

小さい波　小さき波狀を四回ゑがきつゝ左右に開く。

よせては　左足を一歩左へ次に右足を摺りつゝこれにつく此時兩手を開掌のまゝ左上に充分に揭ぐ。

かへ　足は其まゝ兩手を右方に振り下ぐ。

して　左方に振る。

またよせて　右足を一歩右へ次に左足をすりつゝこれにつく、兩手を充分に右上にあげ　てにて兩手を腰につける。

しろく　斜左に向きて左へ小足にて三歩　くにて兩手を體前下方に開掌のまゝ突き出す。

しろく　斜右に向き同じ表情を爲す。

まっ　圓心に向き左足にて強く足蹈をなし體前下方より左右側に開く。

しろく　兩手を更に兩側上にあげ手頸を立てゝ丸く掌を向き合す如くす。

咲いては　體前上より下ろす時強く拍手して左右側下方に開く。

ちるよ　兩側より體前目の高さに突き出す（五指を開く）。

波の花　其手の掌を下に指を揃へしなやかに小さき波狀を（三回）描きつゝ兩側に開く。

二、大きい舟　兩手を兩側より抱へる如く體前にて掌を向き合す。

小さい舟　上體を稍〻前に傾け兩掌の間隔を（一尺位に）狹くす。

けむりはいたり　兩手を頭上（開掌のまゝ）にあげ

て肩を軸にして小さき圓形にふる　たりにて兩手を下ろす。

帆かけたり　體前に眞直にあぐ（掌を向き合す）

走る　左へ小足にて三歩兩肱を屈し胸前に開掌し兩手合せをつけ掌を下にし　るにて其まゝ兩手を體前下方に突き出す。

走る　右方へ同じ表情をなす。

右　右手を右方に（掌を上に向け）肩の高さにあぐると同時に頭を右に向く。

左　左手を右同様にあげて頭を左方に向く。

いつか　右手を翳して遠くを見る如くす。

遠く　右足を一歩前へ踵をあげ遙かに見る如くす

消えて　兩膝を屈し右足を左足より一歩後方へ引き　てにて左足を右足と揃へ

ゆく　にて體を伸ばす。

三、大きい魚　兩食指にて第二の大きい舟と同じ表情なす。

小さい魚　前小さい舟に同じ。

尾ふりひれふり　兩手を體前に肩の幅に伸ばし兩掌を向き合せ兩手頸を左右に振ること四回。

浮き　兩手を揃へ掌を下にし踵をあぐると同時に兩手をしなやかに上に浮かす。

しづみ　踵をつけ兩膝を少しく屈し兩手を下に沈ます。

遊ぶ　左方へ小足にて三歩兩手の食指を竝べつけて掌を下方に向け肱を屈し手を體前に持來り、ぶにて突き出す。

遊ぶ　右方へ同様になす。

波の下　圓心を向き右足一歩前に膝を屈し前の如くしたる兩手を下方へ突き出す　下にて左足を右足につけ體を伸ばし兩手は前方肩の高さにす。

海の山かげ　右足を後方に引き兩手を兩側より頭上に圓形にあげ上體を後にそらす、此時上方を見る

草の　右足を後方に引くと同時に兩手を右側下方に流す、此時膝を屈す。

かげ　にて左足を右足につけて體を伸ばす。

幼稚園と小學校との聯絡問題（一）

シカゴ教育大學助教授　アリス・テンプル女史述
艶　子　譯

この一篇は在米倉橋主幹よりお送り下さいましたザ・エレメンタリー・スクールヂャーナルの三月號に所載のもので、なるべく原文に忠實にと思ひましたが、學制の事など不案内の點がありますために、適當な譯語を得ず充分その意をつくさぬ點もあろうと存じます。その點は讀者諸君にも、また、テンプル女史にも御諒察を願はねばなりません。（譯者）

幼稚園と、小學校の初年級とをその仕事の上に聯絡させるといふ事は、現下の教師及視學官の人々が眞面目な注意を拂つてゐる問題です。そこで、この問題に解決を與へんために企てられてゐるはたらきをこゝに記すといふ事は、現今、實際的に何か役に立つこともあらうと思ふので、次に我がシカゴ教育大學が、大學の各分科竝に大學附屬の小學校に於て、幼稚園の教育と、他のいろ〳〵の學校教育機關との間に組織的の關係を齎さうとしておる實際の狀況を報告しやうと思ひます。

○シカゴ教育大學の各分科

教員の養成……　シカゴ教育大學に於ては入學後、最初の間は、他の教員養成所に於けるごとく、一方には、小學校教師として必要なる一般の學課を授け、又、他方には、幼稚園保姆として必要な特種な學課を授ける。

小學教師養成を主とする師範學校に於て特に幼稚園保育の實習を課するといふには此處に二つの理由がある。（第一）幼稚園といふものは、米國では、今の樣にこれが公立學校の系統の中に這入つて來ない以前は、多年の間、一つの私立の、また、むしろ慈善的に設立され維持されて來たもので、その當時の幼稚園の保姆といふのは、また、特にその目的でたてられた、私立の保姆養成所で養成されたものであつ

た。その後時代の要求とゝもに、公立學校に、幼稚園が出來る樣になつても、その公立幼稚園の先生は、やはり、永い間、この私立師範學校（保姆養成所）で教養されたものがなつて居つた。それ故に、扨此處に、公立の師範學校が、愈〻保姆養成の必要を認めて來た時になつても、學課と云へば、今迄の學課の上に、たゞ、かの私立保姆養成所で課してゐる特別の學課を、たゞ附け加へ、一人二人の保姆をその特別學課の先生として聘したのであつた。（第二）、當初の幼稚園の管理法とか、教育法、教育內容などが、當時の小學校のやりかたと、あまりにかけ離れて居たゝめに、幼稚園の保姆養成といふものは、教員養成の特別なものとして缺くべからざるものゝ如くに見えたのであつた。

最近二十年間に於て、幼稚園側にも、小學校側にもその實際の上に多くの變化を來して居る事が證明された。日毎に進歩の過程を歩みつゝある現今の幼稚園は、もはや、かの、傳統的な、恩物（ギフト）と作業（アンド・オキユーペーション）（フレーベルの）及その嚴格な使用法などに拘泥しては居られぬ。また、幼兒に、この宇宙の眞理をしらせるのに、その出發點としてあの恩物などによる象徵的な方法による樣な事もしない。そのかはり現今では自分で自分の身體を支配し、自己の觀念を統一し、發表し、又その經驗を了解し之を擴め、而して一層望ましき生活狀態と、習慣とをつくり得る樣に、必要な材料も、必要な活動力も彼等子供のために用意されるのである。かくて今日迄の小學校は、讀書、習字、算術の必要學課を主として、それに、唱歌、畫き方、手工、談話、遊戲などを加へて、その課程表を豐富にした。しかもその一つ一つの學課の、主旨よりも、その仕事が兒童と云ふ側から見て如何に關係し、如何に統一されて行くかといふ事の考究に骨を折つたのであつた。

かくて近年に於ては、學校の教室における實際上のかくの如き變動が、師範教育の學課目に及ぼし、之をかへねばならぬといふ事が一大傾向としてあらはれて來た。卽ち、一方には、幼稚園及小學校一二年のための教員を養成し、他方には、小學校三年級以上の教員を養成し、この兩者を一つの組織の內に統一しやうといふ事である。シカゴ教育大學に於ては、凡そ七年前に、かくの如き組織上の改革がなされたのである。

修業年限二ヶ年の養成所における課目

幼稚園と小學校初年級との聯絡問題に關して目下確かに信ぜられて居る事は、兒童の生活に於て四歳より八歳に到る年齢の間は、比較的、分かつべからざる一様(ホモジニアス)の狀態にあるといふ事である。從つてまたこの年齢の中にある兒童を教育するといふためには、その教師は、この時代の兒童の精神的、身體的のあらゆる特性及この四年間の全時期に何が必要であるか、如何なる方法によるべきかを熟知して居なければならぬ。それでなければ、この期間の教育は功を奏する事が出來ない。そこで、この意味の教員養成にはその課すべき學課もそれに從はねばならぬ。

そこで我が大學に於て課して居る學課は次の如くである。

一、一般課目

1 教育學大意　2 小學校に於ける教授の原理　3 兒童及學校衛生　4 英作文

二、分科課目

5 幼稚園(キンダガルテン)＝初等教育(プライマリー)の大意　6 工藝的技術(インダストリアルアート)　7 讀方、言語學及文學　8 遊戯及競技　9 圖畫及彩色法　10 音樂　11 自然科學　12 地理學　13 數學　14 實地教授　15 同上

（12 地理學 ― 或は ― 13 數學）＝（14 幼稚園 ― 或は ― 15 實地教授）初等學級の學課目

三、選擇課目

16 17 18 各人の興味により或は必要に應じて選擇す、而して、そは當該科目の顧問の贊同をうくべきものとす。

次にこの表の説明をすれば

一、一般課目　の中の初めの四課目は、小學校の何れの學年をも教へ得るためにと準備する學生にはすべて課せられる、その中で1は學生をして先づ教育の基本的の諸種の問題を熟知せしむるために課せられるのである。小學校を參觀せしめ、その報告を呈出させる事も、この課目の一部分となつてゐる。2は、やはり第一學年の中に課せられるもので、その目的とする所は、學生をして、小學校に於ける教授並に學級管理に關する一般の方法をよく知らしむるにある。學生は、教師とゝもに、小學校ならびに幼稚園の諸學級を參觀して、教授原則を實地に觀察する。それとゝもに、その參觀したる課業をまた理

論的に分解もし討究もする。この1、2竝に衞生學や英作文は、たゞ之は一般必須課目であつて、これが直ちに幼稚園＝初等教育の教師のために特に必要だといふ譯ではない。

二、分科課目　の中で、最初にあげられたる、幼稚園＝初等教育の大意は、初めの教育學大意と平行して授けられる。これは四歲乃至八歲の年齡の間の子供の研究竝にこの期におけるその教育の特質と云ふ事に特に力を入れて居る。教師の指揮監督のものに、幼稚園及初等學級(小學校の)を實地見學する事がこの課目の重要な部分をなして居るのである。その他どの課目も何れも、皆實際に、大學附屬の幼稚園竝に同附屬小學校の初めの三年級における、それぞれの學課を教授する方法や、その主旨を討究するといふ事、又、その附屬學校における各課目の教授振りを實地見學すると云ふ事で、これらの課目が相互關係し、組織されて居る。

學生は、教育の方の一般的の二課目及方法論の實際のある課目を終らなければ、教生として實地練習をする資格は與へられない事になつて居る、それ故實地練習をするまでに、その各學課に聯關して充分の實地見學をするので、學生は充分に用意したる教案をつくりさへすれば、すぐ實地授業が出來るわけである。學生は、かくて、幼稚園及初等學級に、教生として割りあてられるのである。

學生の中で、小學校の二年又は三年を教へる事に興味をもつものは、學課として、地理及數學をおさめる。また、それよりももつと年少な方の子供を受持つ事に興味あるものは前表の中の實地授業の部及幼稚園＝初等學級課目といふ課程を修めるのである。

三、選擇課目　は學生が、自ら不充分と思ふその課程を一層研めるためにおかれてあるのである。

上に述べた課程表を一見して、或は、これでは、幼稚園或は小學校で當然必要とする課目が省かれて居りはせぬか。といふ疑問が起るかもしれぬ。例へば、フレーベルの研究、特にその名著たる「人間の教育」につき、また、「母親の遊戲」のごとき、普通の保姆養成所で一般に基本的必要課目となつてゐるのが、この課程表にはないではないかといふ質問も出やうかと思ふ。かゝる研究がこの表の中に省かれて居るといふ理由は、フレーベルのかゝる名著の中に

あらはれてゐる學說なり、方法なり、またその價値は、特にフレーベルのものをそのまゝ研究せずとも、現代の敎育學書の中に一層明かに、一層わかりやすく見出す事が出來るといふためである。更に、フレーベル氏の敎育上に與へた特別な貢獻に對する研究といふものは、敎育の歷史の光に照して初めてよく、了解せられる事であるし、二ヶ年修業の課程では、實際、將來見込のある敎師を養成するためには、之に課すべき一層直接な、實際的な價値ある課目が澤山あつて、出來るだけそれを授けなければならぬから。

更にこの課程表で見ると、かの「恩物（ギフト）と作業（アンド、オキュペーション）」の如き、幼稚園の敎育手段として傳統的のものを學ばしむる課を設けて居らぬ。そのかはりに、小學下級及幼稚園の幼兒のために必要な工藝的技術（インダストリアル、アート）の課を授けてゐる。これは幼兒に適當な材料を與へてその自己活動を充分なさしめるためには、先づ保姆がそのために必要な技巧に自ら熟達する事が大切であるからで、この課の中で、フレーベルの恩物中、特に價値ありとみとめられてあるものゝみを選び、その研究をする事になつてゐる。しかし、實際に敎室で今は使つてゐない恩物につき、その方法につき、之を學究する事は、この短かい修業年限の間ではとても時間がゆるさない。かくして儉約された時間を小學校の初年級に必要な、讀方その他の學課の敎授法の研究にあてゝ居るのである。

扨、この全課をおはつて、幼稚園の保姆に又は小學校初學年の敎師になつて居る人々は、この課程の中のどれかをえらんでした者よりも實際上、やはり充分な働きが出來る。この全課修業の人達には、幼年期の兒童の能力につき、又この期には何が必要であるかといふ事に關する知識がある。また、彼等は、幼稚園小學校の活動の聯絡といふ事に於て、兒童の立場から見て、そのなす經驗を繼續的にする必要があるといふ事もよく認める事が出來る。かくて幼稚園で子供を取扱つてゐる保姆は、またよく、その幼稚園の價値を犧牲にする事なしに、小學校一年の仕事に對して用意する事も、見込みをたてる事も保姆自ら之をなす事が出來る。同樣に、小學校一年生の敎師は、また幼稚園の保育の效果を如何にせば之を增進せしめ得べきかといふ事を知つて居る。

四ヶ年修業のもの……　一層充分なる敎育を望

むものには四ケ年の課程をおさめ、之をおへたものはバチエラーの學位を得る。この永い課程を修めんとのぞむものが近年次第に增しつゝある。それは小學校教師に一層高い教養あるものを求めるためである。この永い課程を修へたものは勿論待遇も高いわけである。

視學官養成科…… 師範教育を終へ、又、實際教育に經驗あるものにして、視學官たらん事をのぞむものゝために設けられてゐる。その課目も、やはり、教師となる人に課せられるのと同じ樣式で組織されてゐる。この科の學生は、幼稚園竝に小學校、初年級の兩方面における視學官たらんための教養をうけるのである。もし教員養成所に於て幼稚園と小學校初年級とを聯絡統一する考へで教員を養成する事が必要とすれば、視學官もこの兩方面に充分なる働をなすために養成せられると云ふ事は、一層望ましい事に相違ないのである。

（以下次號）

○編輯室より

○

つひこのごろ櫻が咲いたと思つて居ります中にもうあたりは初夏らしい氣分になりました。一日ごとにのびて行く麥の穗がもう隨分ながくなりました。躑躅が概ね色に庭を、堤をかざつてゐます。草や木の綠の色が一日一日と變つて行くこの頃やがて蟬の聲の雨の樣にふる時を、木陰をなつかしむ盛夏を思はせます。一日も一刻もやすまずにうつて行く「自然」をちつとながめてゐますと、生長といふ事をしみ〴〵思はせられます。

○

毎年銀杏の新芽ののびる頃は幼稚園の先生方もお母樣方もお子さん達が附添をはなれて一人で幼稚園で遊ぶ樣にと大骨折りするのでございますね。時にはお母樣方のかくれん坊もよく初まります。けれども、もうもだん〳〵に先生になつて參ります頃でせう。何と申しましても夏休み迄の間が一年中で一番のび〳〵と遊べる時でせう、此ごろは室の外にテーブルを持ち出して粘土細工などいたしましても、暑くもなく寒くもなく誠に靑天井の下は氣持ちがようございますね。今からもう額を汗ばませてゐる腕白盛りを見ますと、まあ盛夏になつならどうでせうと思ひます。

日は長し、時候はよし、すべてが生ひそだつて行く此頃は、とりわけ私共の世界の樣な氣がします。

會報

豫告の通り日本幼稚園協會總會は去る四月二十四日午後一時半から東京女子高等師範學校講堂にて開かれました。集まるもの凡そ二百人、筑前琵琶の演奏に先づ一同はおちついた氣分を味ひました。二時過ぎより會長湯原元一氏の挨拶についで內務省書記官田子一民氏の講演があり、その後の茶話會では會長も、田子先生もゆつくりお殘り下さいまして、會員一同は打くつろいでいろ〳〵のお話に花がさきました。散會しましたのは五時過ぎでした。當日會長のお話の大要は次のごとくでした。

今日は內務省の田子一民先生が、御多用中をくりあはせてお出で下され、特に御講演下さる事ですから私共はゆつくりと拜聽したいと思ひます。同君は社會事業については深くまた久しく研究をかされて居られます。將來は內務省の社會事業の行政の要路にあたられる方です。

幼稚園事業は今日迄教育事業の一つとして、之を學校系統から云へば一段ひくいもゝ樣に看做され、日本などでは、幼稚園は學校系統に屬するものゝ如く、また屬せぬものゝ如くであつて、之に關する詳細な規定もない樣であるが、しかし今では幼稚園が教育機關として最初の出發點であるといふ事は事實となつて來たので、教育系統の上に重大な位置をしめるわけである。米國では幼稚園は小學校と同じく公費ですることが廣く行はれてゐる。日本では文部省が幼稚園に對する態度がどうも曖昧な樣であるが、も少し將來に於てはきまると思ふ。またそうあればならぬ。これは教育の學問上の要求から來る事で、國によりていろ〳〵ではあるが、教育が上にのびるとゝもに、下にものびて、その全系統は延長されて行くべきであるたゞその教育の方法が異るのである。こは世界の大體の趨勢といふ事が出來やう。

ことに幼稚園は、現下の社會事業の發展とともに、別の意味で重要視されるのである。卽ちその精神に於ては幼稚園であるが、その動機が救濟的になされたもの、託兒所の設立といふ事が、今大事な仕事となつて來た。貧民、勞働者が自ら教育する餘力も時間も有し得ぬ時、彼等の子供を預るのであつて、これは、諸種の社會問題とともに研究されねばならぬ。將來の幼稚園は一層擴張され、普及されなければならぬ。そしてこれが社會事業の一つとして、內務省の側にも屬するとなれば、こゝに實際はたらく保姆その人の責任も一層感ぜられ、興味もまして來るわけである。教育といふ事業は順境にあるものを取扱ふよりも逆境にあるものについて苦心する所に教育上の發展はある、ペスタロッヂもその相手は貧民であつた。貧民の子を苦勞して教育する、そして順境にあるもの、如く、或はそれ以上のものにするといふ事は實に至難な事であるが、之に成功する事に於て又、其貢獻も大なりと云はなければならぬ。私は今日も師範學校長會議に出席して、バラック式でもよいから、師範學校に託兒所を設置したいといふ事を文部省に建議して來た次第で、これは今は米國にあられる本會主幹倉橋君が年來の主張であつたので、留守ではあるし、私が同君にかはつて、其の筋にその主張をしたわけで、大に盡力して早くこの實現を見たいと思つて居る。

—(文責在記者)—

少年音樂家（三）

東京女高師教授　岡田美津

二、山路

不思議な力が父には出たらしく、確りした手付で寫眞やマドンナの額を取外して、殘して行く筈の箱へ綺麗に詰めた。彼はまた寢棚の下から大きな塵だらけな手提鞄を引出して中に食物だの、着換だの、四方に散亂つてゐる樂譜紙だのを入れた。

民雄は戸口に佇むで茫然と見詰めてゐたが次第に常にない妙な眼付きをして、

「父さん、僕達は何處へ行くンです。」

と室内へ徐に歩み入つて聲を慄はして尋ねた。

「歸るンだ。歸るンだよ。」

「卵だのベーコンだのを買ひにゆく村へ？。」

「いゝや。あそこにでない。ちがふ方角へ。こんどは谷の方へ行くのだ。」

「谷？　銀の湖のある谷の方？。」

「あゝ。そのもつと先だ……ずつと先だ。」

と父は夢心地で答へた。彼は手にしてゐる寫眞を眺めて居るのであつた。バラ〳〵の樂譜紙の中へ辷り込んでゐる爲、仕舞ひ殘された美人の寫眞であつた。

暫時民雄は父の心を測りかねて視てゐたが、やがて

「父さん。それ誰です。他の寫眞に寫つてゐるいろンな人は誰なんですか。父さんは一つも話して下さらない。唯衣囊の中に始終入れていらつしやる少さい圓い寫眞だけは敎へて下すつたけれど、あのいろンな人達は誰です。」

父は返事をしないで他事を考へてゐるやうな眼を向けて想ありげに微笑した。

「民雄、さぞあの人達は御前を可愛がるだろうな。さぞ可愛がるだろうな。あまり可愛がられて我儘者になつてはいけないぞ。父さんの教へた事をみンな覺えていなければいけない。」

民雄は重ねて尋ねた。けれども父は唯寫眞に向つて何か解らぬ事を小聲にいつて居るのみであつた。

それからは民雄はもう尋ねる事をしなかつた。彼はあまりに驚き、あまりに味氣なく思つた——父がこんな態度をした事がないので。父はせはしなく物品を手提に押込んだり、古トランクへ詰めたりして室を取片附けた。その上ひつきりなしに獨語してゐた——それが民雄には殆ど一句も意味が解らなかつたけれど、後刻に父はバイオリンを取上げて彈いた。それが今迄に嘗てない彈き方であつた。民雄の眼は涙で一杯になり、胸は痺れ塞がるかと思ふ程の苦しさを感じた、何故だか譯は解らなかつたが、時過ぎて父はバイオリンを放して疲勞しきつて椅子に仆れた。民雄も、それやこれやに怖れ疲れて、寢柵に入つて眠に就いた。

夜がしら〳〵明ける頃、民雄は見馴れぬ世界に目を覺ました。父が優しい白い顏をして自分を呼び起こして、朝食の支度をせよと言つて居るのであつた。室は裝飾を剝がれて裸に寒げだつた。手提鞄は蓋がされ、革紐で括られて函入りのバイオリン二つと一所に持出すばかりになつて牀の上に、戸口近く置いてあつた。

「急がなくてはならないよ。汽車へ乘るまでに隨分歩くのだから。」

「汽車！ほんとの汽車？　汽車に乘るンですか。」

と民雄はすつかり眼が覺めてしまつた。

「あゝ。」

「手に持つてゆくのは其處にあるのだけ？。」

「そうだ。さッさと御爲。」

「でも此處へ歸つて來るンですね——何時か。」

之には返事が無かつた。

「父さん——いつか——歸つて來るンですね。」

と民雄の聲は切であつた。

父は屈んで鞄の既に緊く締めてある革紐をなほも締めてゐた。それから氣輕に笑つて、

「そうとも。御前は何時か歸つて來るよ。こんなに種々の物を此家に殘して行くではないか！。」

皿小鉢ものこらず仕舞ひ、衣類もすつかり始末を

し、住み馴れた室へ最後の名殘を惜しンで父子は鞄とバイオリンを手に持つて爽な朝の戸外へ歩き出した。父は戸に錠を下しながら深く歎息をしたが、民雄は氣が付かなかつた。民雄の顔は東を向いて居た——彼はいつでも太陽の方を視て居る子なので。

「父さん。やつぱり行くのは止さう。此家に居ませう。」

と朝の美しさに飽くまで浸りながら彼は思ひ入つて賴んだ。

「行かなくてはならないンだ。さ、おいで。」

と、父は青々としてゐる坂を西へと先へ立つていつた。

行く先は見分け難い程の細道であつたが父はそれを看付けて行き馴れた路のやうに歩いた。唯時々確でもない足を蹈みしめたり、鞄の重みを休めるのに歩を止めた、やがて四面林になつた。鳥が頭の上で鳴きかはし、小さな獸が叢の中を驅り騷いでゐた。樹の間がくれの小河は、生きてゐるのが嬉しいと賑かに音を立てゝゐるし、見上げると、太陽は搖らぐ木の葉の中で隱れン坊をしてゐる。民雄はこんな事が皆悅ばしくて、跳ねたり笑つたりした。彼にはこんな事が變だといふ感じがなく、鳥も樹も日光も小川も林の中の小動物もみな自分の友達なのであつた。併し父は——跳ねも笑ひもしなかつた——自然を好む心は民雄とかはりはないのであるが。父は今案じきつて居るのであつた。

彼は力の及ばぬ事を企てたのだと今悟つたのである。一歩一歩に鞄は重くなる、腹部のひつきりなしの痛みが刻々烈しくなつて今では堪へがたいまでになつて來た。彼は谷へ降りる路がかうまで遠いのを忘れてゐたのである。山路へ掛からぬうちにはや彼は力が盡きかけてゐたのは氣附かなかつたのである。頭腦の中へ繰りかへし湧き出るのは「萬一自分が……」といふ考であるがその先を自分にも言語に纏めてみなかつた。

晝になつて晝食をする爲に休息し、夜はいさら小川が黑い池に流れ込むあたりで野宿をした。翌朝父子はまた山路を傳はつて降りたが、鞄を持つて居なかつた。父はそれを凹地の木の葉の下へ隱して、そして、事も無げにかう言つた。

「やつぱり之は提げて行くまい。辨當を出してしまへば他に入用のものも入つてゐないンだし、夜は

もう谷へ降りつくからな。」
民雄は笑つて
「ほんとに。いりませんね。」
と云つてまた笑つた。彼はたゞ譯もなく嬉しかつた民雄には鞄なンか入用がないのであつた。
二人は今山を半分以上降りた。そして草の生えた道路に出た。人の通らぬ所らしいが路には相違なかつた。なほ進んで行つて路が四筋になるところへ出ると、その二筋には車の轍の跡が澤山ついて居た。日沒の頃二人は小河に沿ふて行くと、小河は細聲に、野や草地の趣を語つてきかせた。民雄は谷へ著いたなと思つた。
彼はもう笑つて居なかつた。驚いた眼をして父を視てゐるのであつた。この子は心配といふ事をまだ經驗した事がなかつたが今初めて味はつてゐるのであつた。もつとも物事がうまく行つて居ないのだと漠然と感ずる位の程度ではあるが、父は先刻からあまり物を言はぬし、言ふ時には、はつきりせぬ常と變つた音調で言ふし、足早に歩いては居るものゝ一歩〳〵に骨が折れ呼吸がせはしく喘ぐやうである。眼が光つて路の前途を見詰めて、心ばかり急いてゐる風であつた。民雄は二度程話しかけたが父は答へなかつた。仕方がないので彼は疲れた足でコツ〳〵歩き續けて、心の中で昨日出た山頂の小家懷しいと思つて居る。
路をゆく人にはあまり逢はなかつた。逢つてもバイオリンを提げた父子連に注意するものは無かつた。丁度四邊に人氣の無かつた時に、父は路傍の草の上を歩いてゐて、躓いて仆れてしまつた。
民雄は飛んで傍へ來て。
「父さん、何です、何です。」
答へがなかつた。
「父さん、何故僕に何とも言はないの。民雄ですよ、父さん。」
父はやつとの思ひで半分身を起こした。暫時は茫然と民雄の顏を眺めて居たが思ひ出した事に刺戟されたらしく狼狽て動作を始めた。慄へる指で懷中時計と小さい象牙製の小像を民雄に渡し、それから衣袋を探つて草の上にピカ〳〵する金貨を——民雄の眼には百個もあると思はれる程——置いた。
「之を取つて——隱して——仕舞つて御置き。入用が——ある時まで——さ御いで。御いで。父さん

は行かれないから。」
と呼吸も切れ〳〵に彼は言つた。
「僕一人で、父さんとでなく？。」
と民雄は呆れて不服を言つた。
「僕は行かれない。路を知らないから、それに僕は父さんと一所に居た方がいゝ。」
と言つて時計と肖像を衣袋に納め、
「そうすると二人で一所に行けるから。」
といつて父の傍に坐つてしまつた。
父は力弱く頭を振つて、金貨を指した。
「それを――民雄――隠して。」
と父は蒼白な脣でガタ〳〵物をいつた。
民雄は焦心さうに金貨を拾つては衣袋の中に押込み、
「でも父さん、僕は父さんとでなくては行きませんよ。」
と頑に言ひ張つた。金貨が一枚殘らず片付いた頃に荷馬車が一臺ガラ〳〵上の坂の方から廻つて路へ出て來た。
荷馬車の主は路傍に居る男と少年とを意地惡げに眺めていつたが馬を停めなかつた。彼が過ぎ去つたあとで民雄はまた父に面した。父は再び衣嚢を探ッてこんどは上衣から鉛筆と帳面とを取出し、帳面を一枚引裂いて大儀そうに何か書き出した。
民雄は吐息をついて四邊を見廻した。草臥れてお腹が空いて居るが一體何がどうしたのか彼には解らなかつた。父さんが大變どうかしたに違ひない。もう大方暗くなつてゐるのに行く處もない、食べるものもない、山の上のあの遠い〳〵處には懐しい小家が人が居ないで淋しがつてゐるのに。あそこなら未だきつと日があたッてゐる――どうしたッて夕照と銀の湖とは見られるのに、こゝは灰色の陰影と、長く續く陰氣な路と、一二軒の家があるばかり他に何もありはしない。高いところから瞰下ろすと谷は麗はしい仙郷とも見えるが、ほんとに來て觀ると侘しい暗い荒れたところだと彼は思つた。
民雄の父は帳面からまた一枚紙を裂き取つて別の手紙を書き初めた。その時民雄は跳び立つた。二人の休むでゐた路の傍に、チラホラ見える家が思ひ付いたので、彼は足早に一軒の家の入口にいつて戸を敲いた。すると無愛想な女が出て來て、
「何です。」

と言つた。
民雄は山の女に物を言ひかけられた時父に敎へられた事があるので、帽子を脱して、
「今晩は！　僕は民雄といひます。」
と無邪氣にいつて、
「父さんが大變草臥れてあつちの方で仆れてゐるンです。どうか御迷惑でなければ今夜泊らせて下さい。」
戸口の女は目を見張つた。呆れて口もきけない樣子。質素な、いや粗末といつてもいゝ少年の服裝から、路傍に半身を横へて居る男の樣子を見やつて、女は怒つたやうに頤を突き出して、
「フン、泊りたいッて！　呆れらァ！。」
と嘲つて、
「私ンとこはね無宿者の宿はしないよ。」
と言つてバタンと戸を閉てゝしまつた。
こんどは民雄が眼を見張つた。無宿者といふのはどんなものだか知らないが自分の頼む事がかう無下に拒絶られた事はなかつた。それだけは確だつた。何だかゞ心の中に込み上げて來て首から額まで紅くなつた。彼は戸のポッチにきつと手を掛けた——あの女に一言いつてやらねばと思つて。すると急に戸が開いて、さきの女が前程の恐ろしい權幕でなく、
「オイ、御前さん御腹が空いてるなら、牛乳とパンをやるよ。勝手口へ御まはり。出してやるから。」
といつてまた戸を閉めてしまつた。
民雄はあげた手を下ろしたが、まだ汐した紅味は顏にも首にも殘つてゐた。そして此女に物を貰ふなと心の中で何だかゞ止めてゐた。——併し——父さんが、あんなに疲れてゐる、自分の御腹も、ものが欲しくて〳〵堪らなくなつてゐる。貰はぬ譯にはいかない。民雄は首を俛れてそろり〳〵家について裏へ廻つた。
パン半塊、牛乳一杯を貰つた時、民雄は山中の村で買物をした時には父が御金を拂つたのを不圖思ひ出した。今衣囊に金貨があつて丁度よい、拂ふ事が出來るからと彼は考へた。途端に垂れた頭が高くなつた。取戻した自尊心で身體もシャンとなつた。彼は食物を片手に持ち直し、明いた手を衣囊に入れて光る金貨を一つ、擴げた掌にのせて出した。
「パンと牛乳の代に之を取つて下さい。」
と誇らしげに彼はいつた。

女は頭を振りかけたが貨幣を一寸視ると、驚いて、俯いてなほよく視た。それからッイと身を起こして怒りの聲を張り上げて、

「金貨だ。十圓の金貨だ！　ぢや御前は無宿者の上に泥棒だな。そんならこんなものはいるまい。」

と鋭く言ひ終り、民雄の手からパンと牛乳を奪ひ取つた。

民雄はひとり戸口に佇んだ戸内で急に閂をかける音を耳にしながら。

泥棒！　民雄は泥棒の事はよく知らないがどんなものだ位は解つて居た。一ヶ月前に山の小家からバイオリンを盗み出さうとした男があつた時、あれが泥棒だと牛乳配りの小僧が言つた。民雄は閉まつてゐる戸口に對つて口惜しさにまた顔を紅くした。併し長くもゐないで、父の許に走り戻つた。

「父さん、いらつしやい。早く！　いらつしやい。」

と聲が咽喉に詰つたやうに云つた。

少年の聲があまりに切なので、思はず病人も起ち上つた。そして慄へる手で今まで書いてゐた手紙を衣嚢に押込んだ。紙を裂き取つた帳面は草の中に何時か落ちてしまつてゐた。

「あゝ、行かうよ。氣分が少しよくなつた。歩……ける。」

と父は呟いた。

父は歩いた。そろ〳〵と十歩か二十歩ばかり。すると、背後から車の音がして、それが二人の傍に停つた。

「オイ、御前さん達、村まで行きなさるのか。」

と誰か聲を掛けた。

「そうです。」

と民雄は素早く答へた。その村はどこにあるのか知らなかつたが、自分を泥棒といつた女の家から遠いところに違ひないと思つた。それだけが解つて居れば他に懸念はないのであつた。

「わしもその近くまで行くンだが、乗つて行きなさらぬか。」

とやはり親切に男が言つてくれた。

「え、ありがたうございます。」

と少年は飛び立つやうに答へた。そして共々父を助けて廣やかな荷車の上に乗せた。

あまり談話はなかッた。男は忙しく馬車を驅るので馬の方に氣を取られてゐた。病人はうつら〳〵と

して休んでゐた。子供は惱ましげな眼をして、樹や家が飛ぶやうに過ぎるのを默つて眺めてゐた。太陽は、とくに入つてゐるが暗くはなかつた、月が圓く光つて空は澄み渡つてゐるから、路が二叉になつて居るところで、男は馬を止めて、

「濟まないがこゝで下りて貰はなければならない。わしは右へゆくンだから。御前さん達ももう一二町行くだけだ。」

と快活にいつて、燈火がかたまつてチラ〳〵見えるあたりを鞭で指した。

「ありがたう、ありがたう。」

と民雄は父の歩くのを支へながら禮を述べた。

「御蔭で助かりました。どうも、ありがたう。」

民雄の心では、困つた際に助けてくれた御禮に、光つた金貨をみんなこの親切な男の足下に置きたいと無暗に思つた。併し、うつかりした事は出來ぬ、店へいつた時は御金を出してもよいが、店でないところでは泥棒にされてしまふらしいと彼は考へた。

民雄は父を相手に、目前の問題に對した。今晩どこへ泊らう。見たところ、父は遠くまで歩けさうもない、父は何か話をし出したが、低調に言ひさしてはあとを途切らせるので、自分には分らない、それがまた民雄には心配なのであつた。家は手近なところに一軒、村へゆく路に沿ふて三四軒あつたが、先刻の經驗で懲り〳〵してもう今夜は見知らぬ家や見知らぬ女に依賴る氣にはなれなかつた。

家よりも近くに、納屋のしかも大きいのが一つあつた。この納屋へと民雄は父を導いていつた。

「父さん、もし入れたら、あすこへゆかう。一晩あすこで休んでゆかう。」

と小聲に優しく勸めた。

○寄稿を歡迎いたします。

一、幼稚園教育界に關する諸集會の報道
一、保育上の諸調査
一、保育の實際について經驗談
一、其他御研究のいろ〳〵を

本誌は最も平易な、最も教育的な子供繪雜誌たるべく苦心して居ります

コドモ

編輯顧問 高島平三郎先生

幼年雜誌 良友

本誌はコドモの兄樣姉樣に當り、小學生の讀物として最も適當な雜誌です

近來子供雜誌や繪本類が非常に多くなつて、既に二三十種に達してゐる。世の父兄諸氏は、この多くの同種中、はたして何れを子弟の爲に選ばるゝであらうか單に玩具と見做して、その選擇を慢然兒童の取捨に一任して置いてよいであらうか。

發行所 東京市小石川區林町七十五番地 コドモ社 電話 小石川 六一一八 二九二

實物應用の運動具出來

廻轉スケート

定價參拾八圓

1 幼兒が開き戸(門の戸など)に片足を掛け一方の足で跳ねて行き、戻り、して嬉んで居ますのをよく見掛けます。之れは何處の幼兒もやつて居ることであります。其れを多人數で乘れる樣に、活動的に廻轉する樣に考案せられたのがこの廻轉スケートであります

2 ブラ下て片足を掛け片足で跳ねるのでありますから手を伸ばすことゝ跳躍の運動が出來ます

3 東京市立、富士見幼稚園で始めて備へられたのでありますが幼兒の嬉びは考案者の豫想外でありました

4 鐵製でありますから堅牢なることは申す迄もありません

5 四人乘りでありますが一人でも二人でも或は五人でも自由に乘て廻轉することが出來ます、危險の慮なきことは右幼稚園先生の立ち處に證明せられたことであります

東京麴町三番町

幼稚園用品製造發賣元

フレーベル館

電話九段一三〇七
振替東京一九六四〇

明治三十四年一月二十八日第三種郵便物認可(毎月一回十五日發行)

幼兒教育 第二十卷第五號 大正九年五月十二日印刷 大正九年五月十五日發行

印刷所 合資會社 杏林舍